科目名	産業疫学・医学概論特別論文指導

科目責任者	藤野　昭宏	（医学概論　教授）
担当者	中谷　淳子	（産業・地域看護学　教授）
担当者	石丸　知宏	（医学概論　准教授）

開講時期:	1～3年次	単位数:	8 単位	

● 科目の教育目標

一般目標（GIO）

産業疫学・産業保健ならびに医学概論領域において自らが主体となって研究を推進し、査読システムが確立した産業保健・衛生系ならびに生命倫理・医療人類学の専門誌に掲載するプロセスを学び、産業疫学領域及び医学概論領域に貢献できる科学者としての能力を身につける。

行動目標（SBOs）

1) 産業疫学・産業保健に関するテーマを自らが主体となって見いだすことができる。
2) 生物統計学的手法を自らが主体となって見いだすことができる。
3) 生命倫理学のテーマを自らが主体となって見いだすことができる。
4) 医療人類学に関するテーマを自らが主体となって見いだすことができる。
5) 産業疫学・産業保健に関する方法論を自らが主体となって見いだすことができる。
6) 生物統計学に関する方法論を自らが主体となって見いだすことができる。
7) 生命倫理学に関する方法論を自らが主体となって見いだすことができる。
8) 医療人類学における方法論を自らが主体となって見いだすことができる。
9) 産業疫学・産業保健におけるアプローチの応用を主体的に論述できる。
10) 生命倫理学におけるアプローチの応用を主体的に論述できる。
11) 医療人類学におけるアプローチの応用を主体的に論述できる。

● 評価方法	論文作成に関する討議への参加度60%、プレゼンテーション内容30%、課題レポート10%等で総合評価する。
● 参考文献	自らが積極的に参考文献を検索・知識の集約を行うが、指導の中で必要に応じ紹介する。

● 授業計画（適宜個別対応）

内容	担当教員
専門的な研究を行うための文献調査の方法、データの収集方法、統計解析、研究倫理など自ら研究活動を行う上で必要不可欠な事項を指導する。	藤野 中谷 石丸
自ら行った研究をまとめるにあたって、論文の書き方の基本から応用まですべての範囲を指導する。	藤野 中谷 石丸
書き始めから論文の受理までのプロセスをデータを用いて指導する。	藤野 中谷 石丸

● 授業内容

（概要）
自らの疑問に基づき研究計画を立案し、データを収集し、論文の作成を行い、投稿、受理までの個別指導を行う。他の院生や教員からもコメントやアドバイスをもらいながら、講座内や学会で研究内容を発表する。これらを通して自ら科学的に問題を発見し、解決する能力を養成する。

（藤　野　昭　宏）
働く人の健康の文化的価値観を生命倫理学、医療人類学及び質的研究の観点から検討できるよう指導する。具体的には、産業メンタルヘルスにおける職場復帰のためのリワークシステムの構築など、働く人の心身の健康を支援するための産業保健システムについて、生命倫理学的・医療人類学的アプローチを踏まえた半構造化面接等によるインタビュー調査を行い、精度の高い質的研究ができる能力を養う。また、指導教員とのカンファレンスを通して、高度な学術的プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を充実させ、最終的には倫理観を有した研究者として自立できるよう指導する。

（中　谷　淳　子）
働く人々の心身の健康の保持増進を図るための高度な産業保健活動実践能力の習得・開発ならびに産業衛生学の発展に寄与する人材の育成を目指す。指導にあたっては、看護学の視点として、対象となる個人の生活背景や価値観を尊重しQOLの向上を重視した支援を行うことや多方面とのコーディネート機能、また保健学の視点として、コミュニティ(地域、集団、組織)を分析し自主活動を促す機能等の視点を取り入れる。また、学生間・学生教員間のディスカッションを通して、産業衛生学に必要な学際的視点、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、論理的思考力を養成し、最終的には独立した研究者として自立できるよう指導する。

（石 丸　知 宏）
働く人々の健康に関して、世界的な健康問題への洞察と実践的な解決策を提供できる人材の育成を目指す。具体的には、アジアの途上国におけるインフォーマルセクターの労働者が経験する多様な課題、新興感染症の管理、職場における差別と偏見等への対応策の開発が挙げられる。文化的背景、社会経済的要因を踏まえた疫学的手法の習得ならびに生命倫理学と医療人類学の視点を統合した質的研究技術を用いてこれらの課題に取り組む。指導にあたっては、国際協力に基づく現地調査の実践に重きを置き、異文化交流を促進する。多角的かつ実践的なアプローチにより、国際的に活躍する幅広い視野を持つ研究者としての能力を育む。